

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業(たん水防除事業)																										
地区名	立田輪中二期地区																										
事業箇所	愛西市																										
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県西部に位置し、東側を海部幹線水路、西側を一級河川木曾川に挟まれたゼロメートル地帯にある都市近郊の農村地域である。</p> <p>地区内流域 1,845ha の排水は、自然排水が困難なため、立田輪中排水機場により、一級河川木曾川へ強制排水されている。</p> <p>しかし、流域内開発による降雨流出量の増加や施設の老朽化に伴う排水能力の低下により、地区の排水状況は著しく悪化し、豪雨時にはしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、立田輪中第2排水機場を追加するとともに、排水路も併せて整備することにより湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、平成2年度からたん水防除事業立田輪中二期地区を実施し、平成24年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>排水機場を追加するとともに、排水路も併せて整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。</p> <p>(計画基準雨量 333mm/3日、1/20年確率雨量)</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>																										
事業費	事業費		内訳																								
	66.3億円		■工事費 59.7億円、■用補費 2.8億円、■その他 3.8億円																								
事業期間	採択年度	平成2年度	着工年度	平成3年度	完成年度	平成24年度																					
事業内容	排水機場 1か所 排水路 L=5,268m																										
II 評価																											
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>事業完了年度からの5年間で、最大3日連続雨量は平成28年9月18日～9月20日に196.5mm(最大1時間雨量61.0mm)を観測したが、農地や公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (蟹江観測所降雨データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大3日連続降雨量</td> <td>333.0mm</td> <td>163.0mm</td> <td>162.5mm</td> <td>110.0mm</td> <td>128.5mm</td> <td>196.5mm</td> </tr> <tr> <td>(最大1時間降雨量)</td> <td>(54.3mm)</td> <td>(54.0mm)</td> <td>(34.0mm)</td> <td>(12.5mm)</td> <td>(60.5mm)</td> <td>(61.0mm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>最大3日連続雨量は計画基準雨量以下であるが、最大1時間雨量では計画以上の雨量に対して湛水被害は発生しておらず、本事業は地域の農業経営の安定と県民生活の安全・安心に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	H24	H25	H26	H27	H28	最大3日連続降雨量	333.0mm	163.0mm	162.5mm	110.0mm	128.5mm	196.5mm	(最大1時間降雨量)	(54.3mm)	(54.0mm)	(34.0mm)	(12.5mm)	(60.5mm)	(61.0mm)
	区分	計画	H24	H25	H26	H27	H28																				
最大3日連続降雨量	333.0mm	163.0mm	162.5mm	110.0mm	128.5mm	196.5mm																					
(最大1時間降雨量)	(54.3mm)	(54.0mm)	(34.0mm)	(12.5mm)	(60.5mm)	(61.0mm)																					
2) 副次目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>—</p> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>—</p>																										

②事業効果の発現状況

【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】

項目		事業採択時 (H2)	再々評価時 (H17)	実績 (H29)	備考
事業期間		H2~H8 (7年間)	H2~H22 (21年間)	H2~H24 (23年間)	
事業費 (億円)	工事費	29.3	65.1	59.7	
	用地補償費	5.2	3.5	2.8	
	その他	3.8	4.5	3.8	
	合計	38.3	73.1	66.3	
効果の 算定要因	流域面積	1,845ha	1,845ha	1,845ha	増減なし
	農地面積	1,302ha	1,260ha	1,246ha	14ha 減
	宅地等面積	543ha	585ha	599ha	14ha 増

【事業期間に対する評価】

再々評価時(H17)より事業期間を2年延長したが、排水機場は完成しており、排水路についても既存のものを活かしながら工事を進めたため、湛水被害等は発生しておらず、期間延長による影響はなかった。

【事業費に対する評価】

排水路工の設計を見直した結果等により、再々評価時(H17)より事業費が6.8億円減で事業完了できた。

【効果の算定要因に対する評価】

再々評価時(H17)と比較して、流域面積の増減はなく、農地面積は微減している。排水機場及び排水路の整備により湛水被害が防止されており、効果については、概ね計画どおり発現していると評価できる。

③事業実施による環境の変化

施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用するなど周辺環境に配慮したことから、自然環境や生活環境へのマイナスの影響はほとんどない。

III 対応方針(案)

今後の事後評価の必要性

主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。

改善措置の必要性

主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置は不要である。

同種事業に反映すべき事項

必要な年度予算を常に把握し、適正な進行管理を行う。また、やむを得ず予算の変動が生じた場合には、事前に関係機関や地元との調整を十分に行う。

IV 事業評価監視委員会の意見

V 対応方針